

比較的、早期の実現を望める、港を活用した経済の活性化について

／ 津田隆

両村空港、両村架橋、船舶に関して質問したいと思います。両村空港、両村架橋は両村における経済活性化、利便性を目指しているわけですが、計画から 50 年ほど経っているうえに、いまだに目途も立っていません。さらに膨大なコストもかかるとのことですが、これ以上やって両村にどのようなメリットをもたらすと捉えているのか教えてください。

■議長（金城信光） 答弁、建設課長。

■国吉善希建設課長 津田議員のご質問にお答えします。空港と橋と船舶に関してですが、架橋については事務局が伊是名村となっておりますので、今後の方向性等、こちらでお答えすることができませんので、ご理解願いたいと思います。

空港に関しまして、両村とも高校や中核病院が無く、多くの島民は島を離れ、沖縄本島都市部の学校や病院へ通い、それを支える家族や親族の移動手段の制限は時間的な負担となっております。唯一の交通手段は海上交通のフェリーのみで、台風や悪天候、機器トラブルによる欠航は村民生活にかかる物資の遅配、観光客の来島やイベントのキャンセルによる経済的活動等の、村の振興発展に与える影響は甚大であると考えています。沖縄本島と各島との縮小を図り、離島の隔絶性や狭小性を緩和し、地域振興を図っていくためにも、航空路は必要であると考えております。以上です。

■議長（金城信光） 津田議員。

■2番 津田隆議員 何十年間も同じことを聞かれているとは思いますが、もちろん今言っていることは正しいと思いますよ。もちろん架橋についても空港についても両村ということで、今は伊平屋の議会だから、伊是名のことは聞けません

けれども、これだけの時間同じことを繰り返してきても、そこでどうしたらいいか、どうしたら早くできるかとか、変わりばえがあるのか、全然なかったんじゃないかなと思って。

そこでもう一つ、別にこれに因縁つけるわけではないんですけども、よく見たら、そこの中に、定期的船舶の計画に関してっていうのがあったわけですよ。航路の計画。その流れを見たら、両村の空港計画の中にある定期航路計画には、橋や空港より実現できる可能性が高いうえに、両村の経済活性化につながり、波及効果が期待できると考えています。空港や橋よりも早期に実現できる定期航路計画を先に進めてほしいと思いますが、どうですか。

■議長（金城信光） 答弁、観光交通課長。

休憩します。

再開いたします。建設課長。

■国吉善希建設課長 津田議員の質問にお答えします。航路について再検討する必要があるなどの意見を取りまとめた結果、伊是名・伊平屋間の定期航路を検討してもらいたいとのことでした。航路補助の対象要件として、先ほどご説明差し上げたとおり、「関係住民のほか、郵便、又は生活必需品及び主要物資等を輸送していること」とあり、伊是名・伊平屋間での航路補助は厳しいのが現状となっております。今後は、航路を運航する事業者が現れるか、生産性がとれない場合、村が補助金や委託料等で収益不足を補うことが可能かなどを、村内外の状況を鑑みながら、まずは伊是名村と相談し、可能性を検討していきたいと考えております。以上となります。

■議長（金城信光） 津田議員。

■2 番 津田隆議員　そうですね、僕もこれは飛行機の、両村空港の中に定期航路と入っていたから、多分伊是名間と野甫間のものだと自分では推定していたから、答弁には入れてなかったんですけども、そこら辺も含めて情報不足もあるけども、なおさら、もちろん飛行機を望むのであれば、伊是名と両村飛行機だから、伊是名村に泳いできなさいとは言えないわけですからね、そのための航路と思っていたわけですよ。もちろんそれは両村で話し合いしなきゃいけないけども、それができれば両村で近くもなるし、たった 5 km しか離れていないところで、経済の面、教育の面からいろんな面で活動できると思うんですよ。

それでもって、もちろんそれも早急に、それだったら飛行機よりも先にそこが先だったんじゃないかと気づいたんですけども、これも議会に来て資料をもらったから分かったことで、じゃあ、「伊是名村民が飛行機に乗るにはどうしたらいいのかな」とか、頭の中で描いたことはあります。それがやっぱり、両村で一日も早く膝を交えてそこに向かってほしいと。

もう 1 点は、さっき言ったフェリーなんですけども、伊是名とはたった 15 km ほど（前泊港～仲田港）しか離れていない。もし行ったり来たりができるのであれば、今、ドックあげてますよね。そうすると、ぐるぐる回れば 2 便になるし、普段だったら 4 便になると。伊平屋だけでは無理だけど、結ぶことによって、もちろん時間がかかったりいろいろあります。

それについて、僕も総合事務局に、「これ結ぶのにペナルティあるか」とか、いろいろ相談してみました。「飛行機もできない、橋もできない、いつになったら伊平屋村と伊是名村は幸せになれるのか」と食い下がったことがあります。そうしたら、最初は今みたいなことをおっしゃっていました。だけど地域創生とかいろいろ変わってきて、総合事務局の返事は「両村で話して来てくれ」という返事です。こ

れは確実ではないけども、「両村で話して同じ方向へ向いたら必ず来てくれ」と言われたんで、切にお願いするわけなんですけども、村長、そのところよろしくお願いします。

■議長（金城信光） 答弁、村長。

■名嘉律夫村長 津田議員、もう少し一貫性のある質問をしてもらわないと、話が飛んでいるんですよね。一つ一つ整理してから次の質問をしていかないと、どこで始まってどこで終わるか、具体的なポイントがいまいちつかめませんので、整理しましょうね。

最初の、スーガ浜の件ですね、トイレなんですけども、念頭平松公園にもあるんですよ。クマヤーにもありますよね。スーガ浜にも造るとしますと、こんなにいっぱいトイレって必要なのかと思いますけどね。景観上、非常に、三つ造るというのはあり得ないのかなと思います。だいたい念頭平松公園で入って、みんな素通りして行くんですよ。ですから、この件については、今後おおいに考える必要があると思います。

あと、津田議員の、空港と橋と船舶についてでありました。橋は、今後非常に難しいという県の見解が出ていますけども、伊平屋空港については、沖縄県の 21 世紀ビジョンに組み込まれたのが 2010 年なんです。2010 年、平成 22 年の 3 月なんです。すでに現在まで 15 年は経っているんですけども、津田議員の質問の中に「両村にとって、どのようなメリットをもたらすと捉えているか」と、これがさっきの質問の答弁の中に入っていなかったんで、誘客、観光立村を目指すという意味では、これは非常に重要なことでありまして、空港を造ることによって、来島する人たちに、観光のコンテンツとして非常に重要な課題の一つなんです。

それだけではありません。空港を造るにあたっては、施設、泊まる場所、ホテルとか、例えば地場産業を利用した食事をするところとか、通信網の、情報の提供とか、いろいろ課題はたくさんあるんです。ですから「今まで要望してきたから空港ができる」ということでは、絶対造れないと思うんです。ですから伊平屋村が何をすべきかということ、まず考えることが一番大事なことです。

県の『21 世紀ビジョン』の中には、伊平屋空港の整備は離島の重要な課題ということで、ちゃんと組み込まれておりますので、諦めることは絶対はないと思うんですよね。ですから我々がどうにかたちで空港の整備をしていくかというのが、大きな課題になっているんですけれども、これは行政だけではできる話ではありませんので、伊平屋てるしのワークの皆さん、これからまた 27 日にある協議会も含めて、これからどういう方法でこの空港を整備していくかっていう、みんなが意見を出し合って、情報を共有していかなきゃいけないことだと思っています。これは大きな課題ですから、メリットとしては大いにあると思います。

まずは、航空会社が本当に来てくれるか、どういうことをすれば航空会社が飛んでくれるかということ、みんなで検討することが必要だと思います。あまりにも人が来すぎても困りますので、オーバーツーリズムになっても自然に負荷をかけることになりますので、なるべく、もう少しホテルを整備して、誘客を進めていくっていうことも非常に大事なことだと思うんですけど、いずれにしても、我々が観光コンテンツにどう取り組んでいくのかがとても大事なことだと思います。メリットとしては、空港を造ることによって伊平屋村の発展に大きく寄与できると確信をしています。そういうことなので、今後、この件についてはしっかりみんなで取り組んでいく必要があると思いますので、どうか一緒に考えていきたいと思っています。

もう 1 点、船舶ですね。今、津田議員がおっしゃられた定期便、これは非常に厳しい。総合事務局へ行って、この前の話ですけども、野甫間は民間がやるなら OK であると。しかし、航路の中に入れることは非常に難しい。

もう一つ津田議員がおっしゃっている、伊是名と伊平屋の船の運航ですね。これも非常に厳しいと。要するに、これはもし合併をしているのであれば可能であったかもしれないけど、今の段階でこの運航っていうのは非常に厳しい。どこかが補助事業を廃止しないとイケないので。伊是名村にとっては、伊平屋村にとってもですけど、メリットがかなりないのではないかと。一つの補助航路が無くなりますから。じゃあ、これ、どこが運営していくかっていうことになりますから、これはいずれにしても、国としては非常に難しいということが、総合事務局の見解でありますので、今後どうしていくかは、先ほど課長から答弁があったとおり、両村で話していくことになると思いますので、どうかその辺ご理解いただきたいと思います。以上です。

■議長（金城信光） 津田議員。

■2 番 津田隆議員 明確に答えもらったんだけど、私は「空港を諦めなさい。」とか言ってない。どっちみち飛行機ができるんだったら、伊是名村との定期便をつないだほうが早いんじゃないかと。それと、今おっしゃった定期航路を伊是名に向けたりするのは、まったくゼロではないと僕は思っています。なぜなら、もちろん総合事務局と議論したけど、正確なものではないんだけど、電話でかなり食い下がりました。「じゃあ、村長は二人いるのに、船を一元化したら緊急の時とかどうするんですか。」と。自治体変わるし、伊平屋の村民を守るのは、村長なのに、そこら辺言ったら、「やっぱり両村で話して、同じ方向向いたら来てくれ。」と、相談はし

たいという話は伺ったんだけど、時間がないので次回につなげたいと思います。よろしくお願ひします。